＜２００９年農林水産研究成果１０大トピックス＞
農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞
伝説の種雄牛「安福(やすふく)」号をクローン技術で復活

＜当該研究成果のポイント＞
岐阜県畜産研究所と近畿大学は「飛騨牛の父」と呼ばれる種雄牛「安福（やすふく）」の冷凍精巣から生きた細胞を取り出し、体細胞クローン牛「望安福（のぞみやすふく）」を誕生させた。安福の精巣は特別な処理をすることなく－８０℃の冷凍庫で１０年以上保存されていたが、この冷凍精巣の中に少数残っていた生きた細胞を培養で増やすことができたことが　本研究の鍵となった。

＜期待される効果・今後の展開など＞
「安福」を再生することにより、安福が死亡した1993年当時にはなかった最新技術を用いて、優秀な和牛の特性を解明することが可能になった。
また凍結保存された組織からのクローン個体作製技術により、現存の遺伝資源を簡易に保存することが可能になると共に、絶滅動物を再生できる可能性が開けた。本研究では、特別な処理をすることなく凍結した場合でもクローン個体を作製できたことから、自然環境下で凍結された動物の組織にも適用可能な技術であると考えられる。

＜研究所名＞
岐阜県畜産試験場
近畿大学
＜担当者名＞
岐阜県畜産試験場　飛騨牛研究部　星野
近畿大学
＜連 絡 先＞
岐阜県畜産試験場　飛騨牛研究部　星野　0577-68-2226
近畿大学　総務部広報課　門（かど）06-6721-2332（2024）

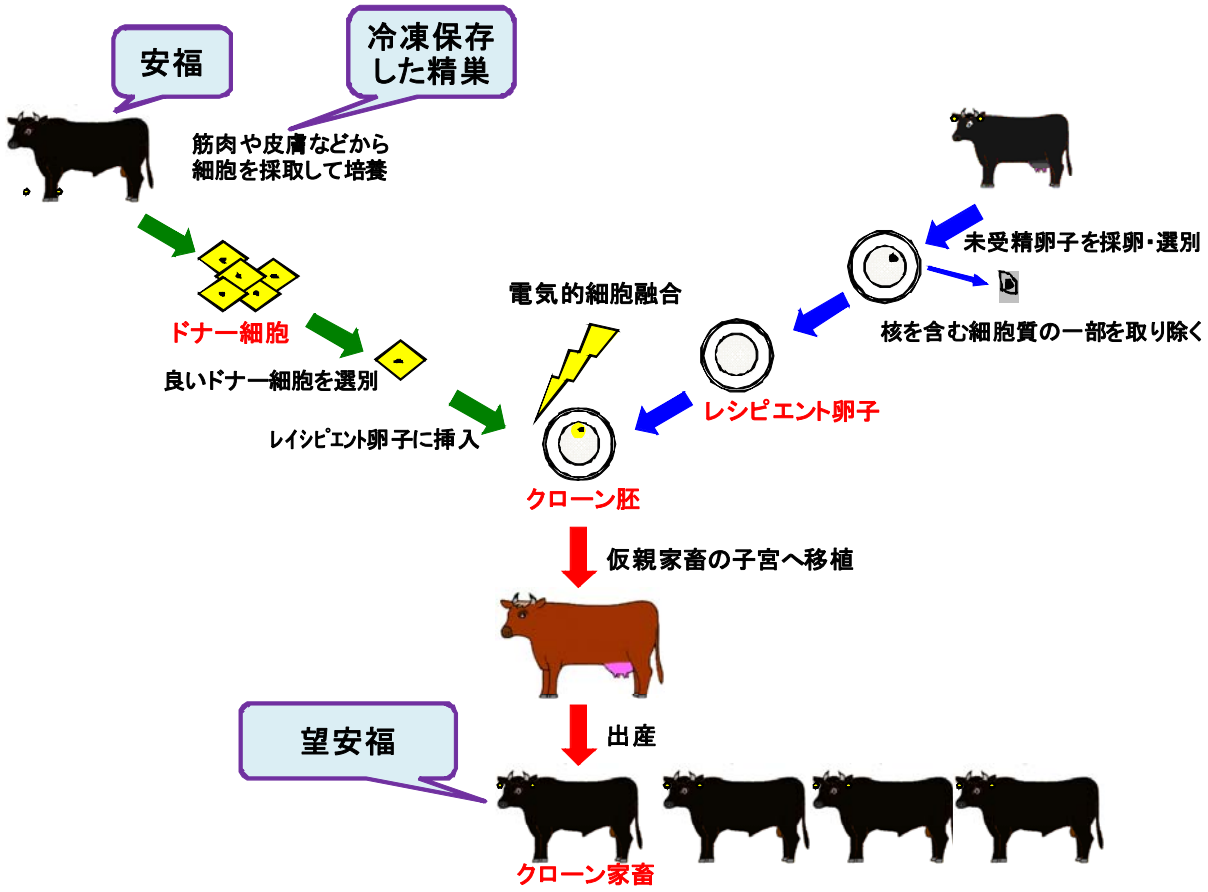

図１　一般的な体細胞クローンの作製方法

図２　安福の銅像と望安福（４か月齢）